

長久手市人口ビジョン【概要版】

1. 人口の現状分析

社会増減と自然増減

- 人口構成が若く、出産・子育て期にある世代が比較的多い。
- 土地区画整理事業や宅地開発によって、名古屋都市圏から比較的若い世帯が多く転入している。
- 自然増と社会増がともに著しい。

高齢化率

- 高齢化率は13.2%で、国や県よりかなり低い。
- 団塊ジュニアの世代（40歳代）が多く、この世代が高齢者になり始める2040（平成52）年頃には高齢化率が高まり、介護にかかる負担等の問題が起きてくる。

合計特殊出生率

- 合計特殊出生率（1.55）は、国（1.38）や県（1.51）を上回り（2008～2012年）、近隣自治体の中では高い。

世帯構成と共働き

- 3世代同居の世帯割合が国や県より低く、出産しても身近に子どもを預けられる人が少ない。
- 共働きの割合は、子どものいない世帯では高く、子どもがいる世帯では低い。

年齢別の純移動数

- 25歳前後の男性による転出が著しくなっている。

産業別の就業者割合

- 第3次産業の就業者が77.4%を占め、国や県よりも高い。

2. 将来人口推計

- 土地区画整理事業や宅地開発等により、転入超過の時期が続き、当面の間、人口は増加していく。
- 2035（平成47）年以降、人口の伸びは鈍化すると予想される。
- 2050（平成62）年～2060（平成72）年頃には、全体的に総人口が停滞する中、生産年齢人口が減少する一方で、老年人口が増加していく。

3. 人口の将来展望

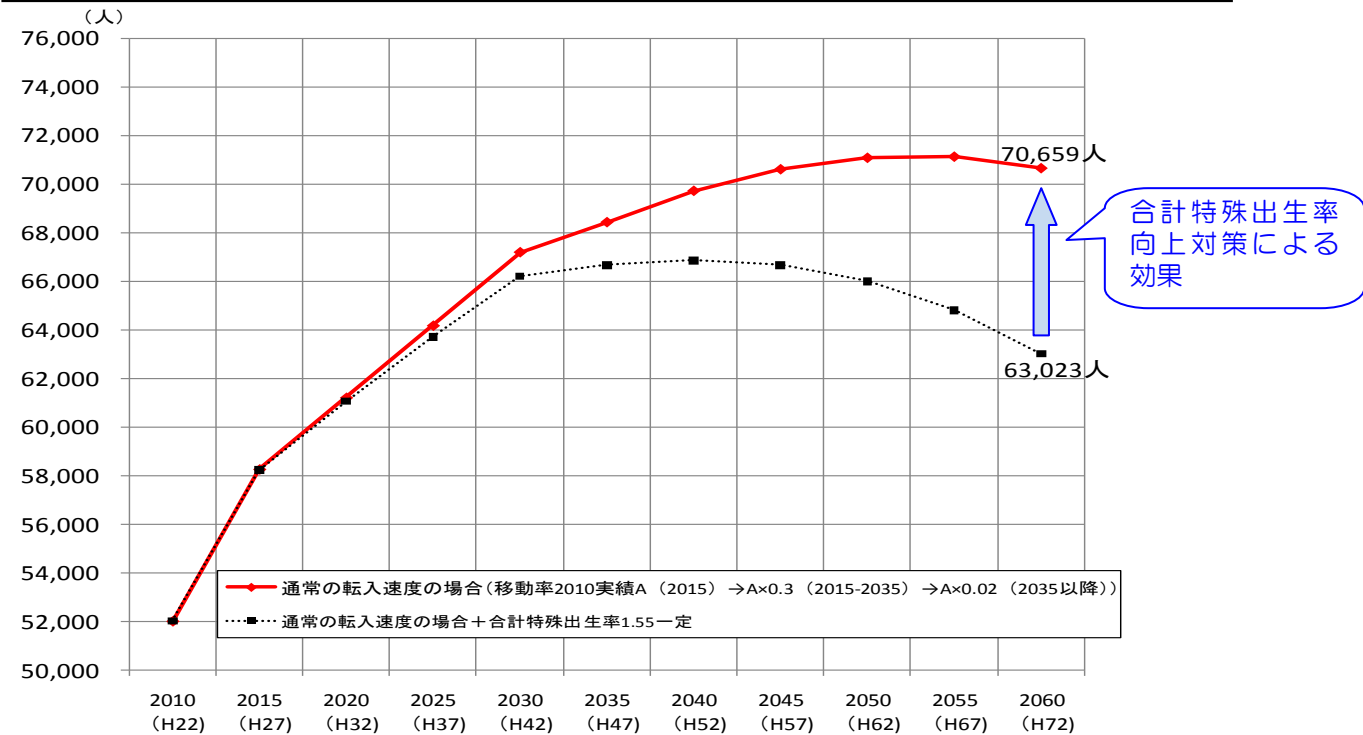
本市が目指す人口規模

○移動率を過去の実績や将来の宅地開発等に関する情報に基づいて推計

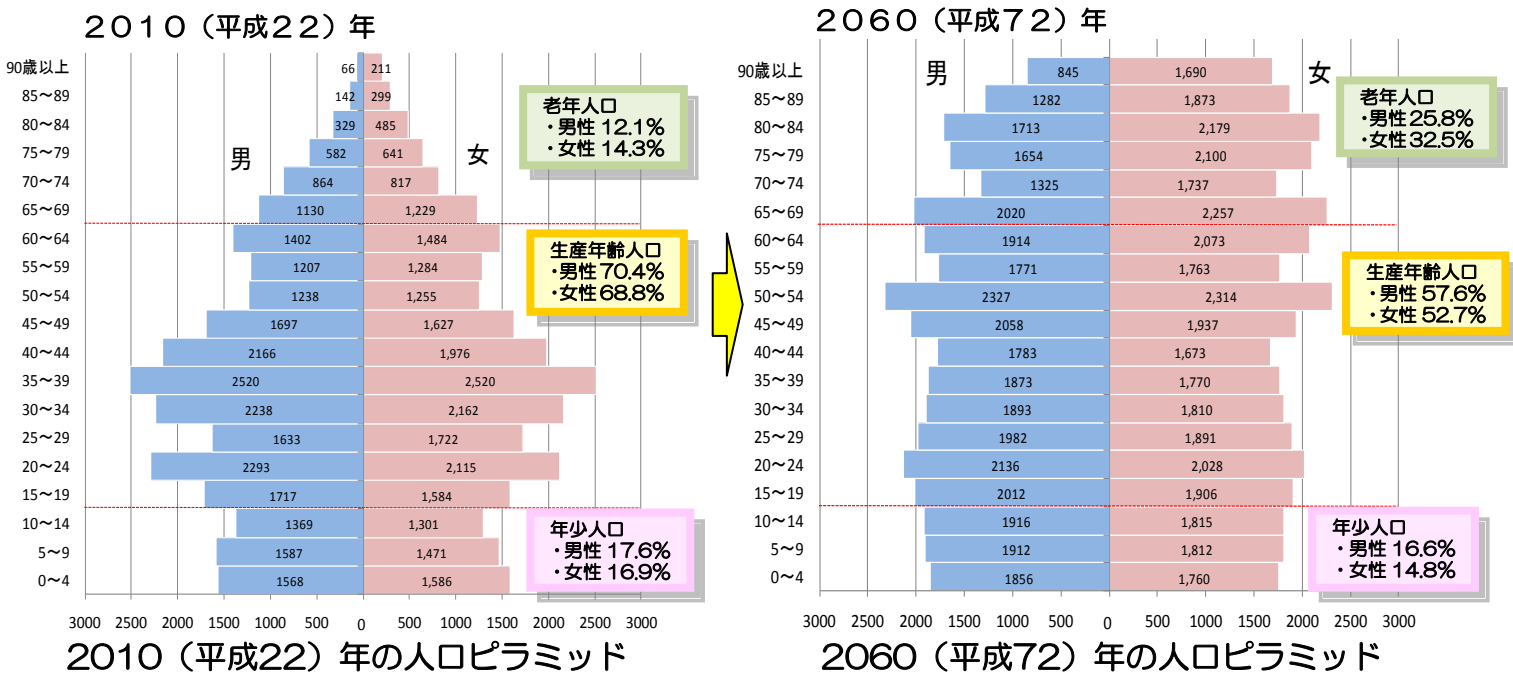
グラフ：赤ライン＝合計特殊出生率が上昇に転じたケース

※国の長期ビジョンの数値（2020年1.6、2030年1.8、2040年2.07）を適用

黒ライン＝合計特殊出生率が現状のまま推移したケース



出産・子育ての支援を継続し、合計特殊出生率を国の長期ビジョンの値にまで高めるとともに、地域の魅力や住みやすさを高め、交流による地域活性化を進めることにより、2060（平成72）年に約7万人の人口規模を目指します。



長久手市まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】

1. 基本方針

「一人ひとりに役割と居場所があるまちづくり」を戦略の根底に据えつつ、次の4点の切り口に重点を置いて、「幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまち」を目指し、市民総動員で取り組むための仕組みづくりを進めます。

役割・しごとづくり

地域での役割を通して、地域に根差し、地域を愛し、まちづくりに主体的に取り組む「人づくり」につなげていきます。

地域コミュニティ・地域福祉

健康づくりを推進するとともに、顔が見える「新しいコミュニティ」を構築し、市民が互いに助け合い、支え合う関係をつくっていくことが必要です。

子育て支援

妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援や、地域で子育て世帯を支援していく仕組みが必要です。

観光交流

本市独自の地域資源を活かして、まちの魅力を高め、市内外との交流を促進し、賑わいを創出することが重要です。

2. 基本目標と数値目標・基本的方向

基本目標1 役割・しごとづくり 「誰もが活躍できる役割・しごとをつくる」
＜数値目標＞

市民一人ひとりが、「役割」と「居場所」を持ち、誰もが「必要とされている」ことが実感できる幸福度の高いまちを目指し、地域で活躍できる体制や仕組み作りを推進します。

数値目標	基準値	目標値
地域で「たつせがある」※と思う人の割合	20.1% (概ね5人に1人の割合) 2014(平成26)年	50% (概ね2人に1人の割合) 2019(平成31)年

※「たつせがある」とは、「立つ瀬がない」の対義語で、「だれもが役割を担い、活躍し、必要とされ、生きがいを持って楽しく過ごすることができる」ことを表した長久手市の造語です。

＜基本的方向＞

- ア 市民の力を活かした新しい役割分担の仕組みをつくる
- イ 「農ある暮らし」で好循環をつくる
- ウ 雇用の創出で地域を活性化させる

基本目標3 地域コミュニティ・地域福祉「地域のつながりを構築し、元気に安心して暮らせるまちをつくる」
＜数値目標＞

市民が自ら地域の課題を解決する力を身につけ、さらにはコミュニティの活性化を図ることにより、市民同士の生活支援につながる取組を進めます。

数値目標	基準値	目標値
地域活動や行事にスタッフとして参加したことがある人の割合	20.2% (概ね5人に1人の割合) 2014(平成26)年	50% (概ね2人に1人の割合) 2019(平成31)年
健康寿命	男性 79.7 歳 女性 83.5 歳 2014(平成26)年	延伸 2019(平成31)年

＜基本的方向＞

- ア 市民が支え合うコミュニティをつくる
- イ 市民の健康寿命を延ばす

基本目標2 子育て支援 「子どもを通して家族と地域の輪が広がるまちをつくる」
＜数値目標＞

保育サービスや教育環境の充実を進めるとともに、身近な地域で支え合う多様な視点に立った子育てしやすいまちづくりを進めます。

数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.55 2012(平成24)年	1.6 2019(平成31)年
安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思う人の割合	50.8% (概ね2人に1人の割合) 2014(平成26)年	65% (概ね3人に2人の割合) 2019(平成31)年

＜基本的方向＞

- ア 妊娠から出産、育児への切れ目のない支援
- イ 地域で支え合う子育て支援

基本目標4 観光交流 「地域の魅力を活かし、賑わい・活気・交流をつくる」
＜数値目標＞

本市の観光資源を活かし、市民が快適に楽しく暮らし、自らが住む地域に誇りを持ち、市民と来訪者が心豊かに交流する居心地の良いまちづくりを進めます。

数値目標	基準値	目標値
観光交流者数	約320万人 2013(平成25)年	約350万人 2019(平成31)年
地域における自慢すべき「宝」があると思う人の割合	26.6% (概ね4人に1人の割合) 2014(平成26)年	50% (概ね2人に1人の割合) 2019(平成31)年

＜基本的方向＞

- ア 地域資源を活かした長久手の魅力とオリジナリティを創造・発信する
- イ 人が集まり情報の受発信が行われる交流の場の創造

3. 「人口ビジョンに基づく市の特徴」と「総合戦略」との関係

